



第二回 若松丈太郎の詩と評論を語り継ぐ会

～元京都大学原子炉実験所助教・小出裕章氏の講演を中心に～

若松丈太郎は、2021年4月21日に85歳で他界された。一周忌の2022年4月には『若松丈太郎著作集 全三巻』、2023年4月には若松丈太郎英日詩集『かなしみの土地』(29篇)が刊行され、その全貌が明らかになってきた。現在3・11から15年が経とうとし、若松氏が1994年に執筆した詩「神隠しされた街」の最後から5行目に「私たちの神隠しはきょうかもしれない」と記してから30年以上が過ぎても、地震大国の日本人は原発を黙認している。政府や原子力委員会や電力業者が原発を再稼働させていく状況の中で、元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏にその問題点や近未来に起こるべき危うさを講演していただく。質疑応答もありますので、ぜひご参加下さい。

【日時】 2026年4月18日(土) / 13:30～16:50 (開場 13:10)

【場所】 東京都中小企業会館・講堂(9F)

〒104-0061 東京都中央区銀座2丁目10-18

Tel 03-3542-0121 Fax 03-3541-7030

<https://www.tokyo-kosha.or.jp/kosha/hall/chusho.html>

【アクセス】 JR有楽町駅より徒歩10分、地下鉄銀座駅より徒歩5分

【参加料・定員】 500円/先着100名

【主催】 株式会社コールサック社



〈プログラム〉

・主催者のご挨拶：鈴木比佐雄(コールサック社代表)

第1部 若松丈太郎の詩と評論の今日的な問い掛け 13:40～15:20(100分)

・加藤登紀子「神隠しされた街」(若松丈太郎の同名詩に加藤登紀子が曲をつけて歌った楽曲) CD鑑賞

・小出裕章(元京都大学原子炉実験所助教、松本市)

講演「若松丈太郎さんの心の在りどころ——福島核発電所事故を通して」

・質疑応答



小出裕章氏



第2部 若松丈太郎の残した言葉が凝視している現在から未来 15:30～16:40(70分)

① 高柴三間(詩人・小説家) / 詩「みなみ風吹く日」朗読【沖縄県からのリモート】

② 岡和田晃(詩人・評論家・翻訳家) / アルゼンチンから原発再稼働を考える【海外からのリモート】

③ 齋藤貢(詩人、いわき市) / 若松丈太郎の少年期に触れて

④ 鈴木正一(詩人、評論家、浪江町) / 若松丈太郎の想像力の源泉について

⑤ 広川恵一(医師、西宮市) / 若松丈太郎の思想的原点と先見性について～望郷小詩——宮沢賢治による Variations から

⑥ ギュルベヤズ・アブドゥルラッハマン(長崎大学人間学博士) / 若松丈太郎の詩と破壊の文明——廃墟・記憶・抵抗

・閉会の辞：鈴木光影(編集者、俳人)

(司会：座馬寛彦)

【来場者特典】

加藤登紀子が曲をつけて歌った詩「神隠しされた街」のCD付『福島核災棄民』を贈呈!

Zoomによるオンライン参加も申込受付中 ※参加ご希望の方は下記メールアドレスにご連絡ください。(参加費無料)

● F A X・郵送にてお申込みの際は下記の申込書にご記入の上、コールサック社までお送りください。

申込書	(お名前)	(電話番号)
	(ほか 名)	
	(ご住所) 〒	

〈お申込み先〉 (株)コールサック社 〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-63-4-209 (担当：座馬)

TEL：03-5944-3258 / FAX：03-5944-3238 E-mail(座馬)：h.zanma@coal-sack.com